



群馬県での豚熱発生状況を踏まえ 農場の防疫体制を見直しましょう！

群馬県前橋市及び桐生市のワクチン接種済農場における豚熱の発生事例(国内64,71,73,74例目)について、牛豚等疾病小委員会・拡大豚熱疫学調査チームが検討を行い、発生状況を踏まえた提言がまとめられました。

豚飼養農家向けの対策として、以下の3点が提言されていますので、これらを参考に農場の衛生管理を見直し、豚熱ウイルスの侵入を断固として阻止しましょう！

1 農場周囲の消毒等

- ・ 群馬県の4事例は一定地域内で発生し、この地域では野生いのししの生息と複数個体での豚熱感染が確認されていました。
- ・ また、農場柵の周辺では獣道やいのししによると思われる掘り返し跡等が確認されました。



- ① 野生いのししで豚熱陽性が確認され、
- ② 農場近くまでいのししの接近が予想される地域においては、**ウイルスが農場に侵入するリスクが高い**と認識しましょう！

対策

- ・ 伐採や整理整頓で農場周辺にいのししが隠れる場所をなくす
(餌場となりやすい場所や雑木林、河川など)
- ・ 柵外側の定期的な消毒を行う
 - ➡ **まず農場にいのしし・ウイルスを近づけない！**
- ・ 衛生管理区域内の定期的な消毒を行う
 - ➡ **農場内へのウイルス侵入を常に想定して取組む！**

2 離乳舎の衛生管理

- ・ 発生は主に離乳舎のワクチン接種前後の豚で確認されました。
- ・ 早期にワクチン接種した離乳豚群でも感染が確認されています。
- ・ 発生豚舎内でネズミの糞や侵入経路となりうる隙間があった事例も。

- ①ワクチンのみで感染を防ぐことは困難で、
②免疫を獲得していない豚群では特に感染が ocorrênciaやすいため、
豚舎にウイルスを持ち込まない・持ち込ませない衛生対策を徹底！

対策

- ・ 豚舎立入時の手指消毒、豚舎内用専用長靴・衣服の使用、持ち込む資材の消毒(一輪車や飼料運搬手押し車など)
→ 消毒済のキレイなものだけを持ち込むよう意識する！
- ・ ネズミ等の侵入防止のため、壁や天井の破損箇所の点検・修繕
- ・ 侵入の痕跡がある場合は殺鼠剤設置や駆除業者へ依頼
→ ネズミ等にウイルスを持ち込ませない！

3 消毒液濃度及び交換頻度

いずれの事例でも消毒は実施されていましたが、効果を最大限発揮するための改善の余地がありました。

- ①冬季の低温や有機物(飼料、豚の糞など)の存在を前提に消毒薬は適切な濃度で使用し、踏込槽など希釈後一定期間使用する消毒液は汚れがなくても1日に1回は交換しましょう。
②外部から持ち込む一輪車等は全体を消毒することが重要です。

豚熱感染を疑う豚を発見した場合は直ちに家畜保健衛生所に連絡してください。

下北地域県民局地域農林水産部 むつ家畜保健衛生所

TEL : 0175-22-1254 FAX : 0175-22-1259

夜間・土日祝祭日の場合は、 家保携帯 090-5841-6810